【ねがいましては】

平成２０年４月２８日　　*KYOWA SCHOOL*
第２１０号

「家族のきずな」

４月２７日（日）の読売新聞１面に、『家族のきずな「弱まった」９割』と題し、世論調査結果が掲載されていました。前回の１９８５年１１月調査では４７％だったそうで、この２０年の間に家族のつながりが薄れたと感じている人が大幅に増えたと書いてありました。その要因として、

・子どものしつけをきちんとできなくなってきている　→　８８％
・一緒に過ごす時間が少なくなってきている　→　８４％
・お互いに干渉しなくなってきている　→　７４％
・まとめ役になる人がいなくなってきている　→　７３％　　と、ありました。

また、自らの家族に対し、どう思っているかの質問には、

・きずなやまとまりを大切にしたい　→　９８％　　だそうです。

さらに日ごろ心がけている具体例は、

・できるだけ話をする　→　６７％
・一緒に食事をする　→　６１％
・誕生日など記念日を一緒に祝う　→　３１％　　です。

この【ねがいましては】を書き続けて、その内容がいつのまにか「家族」を中心に取り上げることが多くなっていたのは、実は知らないうちに子どもたちの発するこころの叫び声を感じ、その代弁をしていたのかなと思いました。この世論調査記事を読み、確信へと変化しました。

今、子どもたちはとても寂しがっていると思います。子どもたちは正しいことをきちっと教えてくれることに幸福感を覚えます。しつけはある意味、「叱られる」という行為から体得されることが多いと思います。「おとうさん、おかあさんは、ぼくを正しい大人へと成長させようとしている・・・。」ただしこの叱りには、親の『欲』はあってはならないと思います。成績欲や出世欲などです。誰が見ても悪いことをしているのに叱られない寂しさは、子を孤独感に落とし入れます。「おかあさん、おとうさんは、ぼくのことなどどうでもいいんだ・・・ぼくはひとりぼっちだ。」やがて子の心は自暴自棄になります。ひとりぼっち、つまり自己中心的人間の誕生です。まわりに迷惑をかけてもかまいません。ひとりぼっちは他人のこころなど考えなくてもかまわない存在です。やがて犯罪・・・。

もし家族がひとつになり、お互いに心を通じ合わせる関係になっていれば、犯罪は発生しにくくなります。「ぼくがこんなことをしたら、きっとお母さんはどんなに苦しむだろう。できるはずないよ。」家族がひとつになることは、犯罪の抑止力になります。

一緒に家族が過ごす時間が多ければ多いほど、家族は太くて強いきずなで結ばれます。「ALWAYS 三丁目の夕日」が大ヒットしたのも、そんな家族のきずなを求める気持ちに火がついたのかもしれません。お互いに言いたい事を言える空間、おたがいに心を丸裸にしていられる空間、そんな空間を子どもたちはほしがっています。

いざとなったときにリーダーシップを発揮して、家族を安全な空気で包み込んでくれる、そんな存在がお父さんであるはずです。今やお父さんたちは子の前になかなか姿を現しません。毎日のように帰宅は午前様、出勤は暗いうちから家を出る・・・。ぼくのうちには、私のうちには、お父さんっていたのかな・・・？　父の存在はいるだけでも意味があるように思います。強い人がそこにいる・・・。子は安心感で包まれます。アザラシのように寝転んでばかりではイメージが悪くなりますが・・・。

今、以前より増して夫婦共働き世帯が増えています。学童保育クラブが盛況なのもその現れです。ここ市川市では原則小学校３年生までが保育クラブに入れます。４年生になったらどうしよう・・・。部活動があります。しかしその部活も思いもよらないところにダメージを落とすことになります。総じて部活動の種類は、運動系か音楽系になります。机に向かう系はあまり見られません。子どもたちの人気もいまひとつだからでしょう。机→勉強→学校の勉強→あまり面白くない。

その部活のほとんどが〇〇大会、〇〇コンクールなど、子どもと部活動の間に競わせるものが介在します。実はその介在があることで、せっかくの土曜日・日曜日がご両親お休みであっても子は部活という構図になり、家族がひとつになり思い出作りの時間を過ごすという大切なものが奪われてしまう結果になります。もちろん土日でさえもご両親がお仕事で自宅不在であれば、安心の場所としての部活動は意味を持ちます。

縁あって、昨年の６月に初めての講演をさせていただきました。演題は「ほのぼの家族」・・・。家族という重みのある二文字を、精一杯大切にして、精一杯子どもたちに感じていただきたい・・・。家族を持たない私の中には理想ばかりが山積しますが、子どもたちは夢のかたまりです。子どもたちは希望のかたまりです。少々現実離れしてでも理想の家族に近づきたくて歩んでまいります。ここには『家族』を感じたくて、『家族』の一員になりたい子たちが多数います。きっと『安心』するんですね。ありがとうね。